



北原白秋

中
白
土
博
義



市時大戦

めまよ水

一
天よ二光
子日は照らす
凌くは何ぞ皇に倏然

大詔くたる杖とや

此の一戦と衝き進み

廣く皇の萬里を平す

目指すは市時大戦

二
誰か思はば
時々の

昔のあつろふを
想はば

つんぱく海の新おき
つんぱく、東東々々と志めて
あはれの新島、あつちの陣、
しんーんと流すおしるの船。

三

神の人あはれ、あつちの船
あつちの船、あつちの船
あつちの船、あつちの船

いづれかおき、あつちの船
あつちの船、あつちの船
あつちの船、あつちの船
あつちの船、あつちの船
あつちの船、あつちの船

四

あつちの船、あつちの船
あつちの船、あつちの船
あつちの船、あつちの船
あつちの船、あつちの船

千古又比るや、うらむや 阿蘭若を
破れ、十二月、この八日、
廣言良ほろ 昔内里右平坊、
我々の、おの 踏ふみ 大車女おんな 百一。


此の文は、
千古又比るや、
阿蘭若を
破れ、
十二月、
この八日、
廣言良
昔内里
右平坊、
我々の、
踏
大車女
百一。



特别
~ 6
5744



北原白秋詩稿
布陸大海戰
一九九三年八月
長男 隆太郎鑑



北原白秋 少国民詩稿
布哇（ハワイ）大海戦

曰大東西戦争少国民詩集正（朝日新聞社
一九四三（昭和一八）年八月二〇日発行）所
収。初出は読売新聞一九四二年一月一日。
本稿は最初の草稿らしく、若干、前記
両者とも字句の異同があり、貴重な文
献資料である。太平洋戦争勃発後約
三週間目に成ったもの故、当時の日本人一般
の反戦の一端を伝える歴史的資料でもある。





2

この用紙は自秋が特別に作らせたもので、
校歌・団体歌をこれに自ら揮毫して、
依拠された学校や会社などに寄贈した。
一九九三年八月二十六日 北原隆太郎記す





□□□-□□

北月自秋詩稿 布陸大海代

◎
北厚隆太郎
長男
解説
入

